

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871900177		
法人名	医療法人 光邦会		
事業所名	グループホーム 銀荘		
所在地	兵庫県小野市葉多町257-1		
自己評価作成日	平成27年6月5日	評価結果市町村受理日	平成27年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2871900177-00-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成27年7月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5名という小規模の事業所であるため、職員と入居者様 又は入居者様同士の関係性が保ちやすく、家族のような環境にあります。「和みの中で、私らしくいつまでも」を理念とし、一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく過ごすことが出来るように支援していきます。また、入居費用は出来る限り経済的負担とならないように低額に設定しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神戸の震災後に、避難されていた方の家をホーム運営されています。入居者と職員が家族のように溶け込んでおり、ゆったりとした時間を過ごされています。2階建ての住宅で、玄関を入ると、すぐに居間兼食堂があり、笑顔で迎えていただきました。狭いながらも、必要なものはきちんと整理整頓され、利用者も職員も動きやすい家具や物の配置がなされています。理念にある、入居者のひとり一人の思いを大切にケアされていることがうかがえます。また、入浴介助や食事介助もある中、毎食の食事も手造りされています。意思の疎通が難しい利用者にも、個々の思いや希望、生活の支援全般を限られた職員で工夫して取り組んでいます。随所に日々のケアの中で培われた工夫がみられ、それにより和やかに、利用者のペースにあつたいつも通りの毎日の時が流れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えた理念「和みの中で私らしくいつまでも」を施設内に掲示し、皆で共有し実践している。	事業所の理念を壁に掲示している。 昨年、老人保健施設の理念を職員から募集し、全職員で事業所の理念について話し合いを行っていることが確認できた。	事業の理念を掲示するだけでなく、定期的な唱和や話し合いの時間をもつなど、管理者はじめ全職員で事業所の理念について理解と共有を深める機会を確保し、継続的な実践につなげる事が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りでは御輿に来てもらったり、併設の老健施設と合同でボランティアを受け入れ利用者さんに楽しんでいただいています。	地域の秋祭りの際には神輿に来てもらったり、また、地域のボランティアにより併設の老人保健施設で行われる、ハーモニカ演奏や和太鼓、中学生のコーラス、ブラスバンド、プリの解体ショーなどに参加し、利用者は一緒に交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて貢献するまでには至っていないが、職員一人ひとりが認知症についての理解を深めてもらえるよう心がけている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に1回、2時間程かけて行っている。活動の報告・運営状況など話し合っている。	1年に1回(今年度は4月26日)入居者家族、市の介護保険課、地域包括、事務長、管理者、職員の代表が参加し2時間行われている事が確認できた。	今後は、地域代表である民生委員や自治会役員などにも参加を呼びかけ、また、2か月に1回を目標に、開催を増やすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が開く連絡会に参加、また、小野市内のグループホームが3ヶ月ごとに開催している連絡会に参加し情報交換している。	市内4か所のグループホームが集まる連絡会に参加し意見交換を行っている。また、利用の問い合わせがあった際に空がない場合には他の事業所を紹介するなどの連携もっている。日頃事業運営などで不明なことの問い合わせは、事務長を通して市へ行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健での勉強会などに参加。また銀荘単独での勉強会を実施し、正しく理解している。	併設の老人保健施設での身体拘束防止の勉強会に参加している。参加できない職員の為の伝達研修も行っている。日中、入浴介助中以外は玄関を施錠をしておらず夜間2階から降りる階段前に転落防止のフェンスをしているが鍵はしていない。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施に加えて、職員のストレスを溜めない為、職員の思いを共有できる環境作りをこころがけている。	法人の勉強会として併設の老人保健施設で高齢者虐待の勉強会を開催、参加している。参加できない職員の為の伝達研修も行っている。また、3か月に1回職員で食事に行き勉強会の復習や相談の場を持ちストレスを溜めない工夫を行っている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要とする入居者はいない為、昨年勉強会にて学ぶ機会を持った。	現在事例はないが、昨年は8月に併設の老人保健施設での権利擁護の勉強会に参加し、学んでいる。参加できない為の職員の為の伝達研修も行っている。	研修の記録を整理体系化し、わかりやすく全職員で活用できるようにされることを期待したい。
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族の希望や不安を尋ね、また当グループホームの入居規定を丁寧に説明し、納得のうえ、入居契約を行っている。	契約法人として、併設の老人保健施設の事務長と相談員が丁寧に説明し契約を行い、施設としても管理者の勤務の都合がつけば立ち合うようにしている。入居後も分からないことがあれば尋ねてもらっているようにしている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見要望ノートを用意し、自由に記入できるようにしている。また、面会時など気軽に意見を聞くようにしていく。	施設玄関に意見要望のノートを置き記入を勧めているが、ほとんど利用されていない。家族が面会に来られた時に意見や要望などを直接職員が聞き出し、相談にのっている。事例として、聞き出した帰宅願望の対応で一時外泊や家族との外出などに活かしている事例が確認できた。	ノートの設置場所を再検討したり、より気軽に意見要望を伝えられる仕組みの構築が望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員連絡ノートを利用し、意見を出し合ってもらっている。また、勉強会の席上も利用している。	職員連絡ノートを活用し職員同士・管理者との意見交換を行っている。 日頃の会話や職員連絡ノートの活用により、職員からの意見で献立・買い物・調理などが支援体制がスムーズにできるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや、ゆとりを持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老健の勉強会に参加している。また、自らの申請があれば研修費用の負担などの支援体制が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月ごとの地域グループホーム連絡会に参加し、情報の交換、サービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にバックグラウンドシートを作成して頂き、ご本人の生活暦やご家族の関係などを把握し今後どのようなサービスが必要とされるか理解する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にバックグラウンドシートを作成して頂き、ご本人の生活暦やご家族の関係などを把握し今後どのようなサービスが必要とされるか理解する。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にバックグラウンドシートを作成して頂き、ご本人の生活暦やご家族の関係などを把握し今後どのようなサービスが必要とされるか理解する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出ること、得意なこと、好きなことなどを一緒に行ったり教え合ったり、日常生活を互いに支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告書を作成し、常に最近のご様子をお知らせし、本人の思いを理解して頂いて、共に支えていけるよう配慮している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の老健から入居した方が多い為、老健を訪ねたり、老健から来てもらったりしている。	今年は実施されていないが例年花見に全員で行き、その帰りに以前住んでいた自宅巡りをしたりしていた。 家族や親せきの方が来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定員5名の小規模施設のため、みんなが、ひとつのテーブルで顔を見合わせ話ができる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談や支援に応じたい。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言い表せない方には、じっくり対応し、思いを把握するようにしている、また職員同士、気づきがあれば情報交換し共有している。	寝たきりの方や言葉が出にくい方には答えやすい質問を意向の把握に努めている。バックグラウンドシート・フェースシート・経過記録シート・好き嫌い表などを利用し本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にバックグラウンドシートを記入して頂き、一人ひとりのこれまでの生活を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、1日の様子を観察し、職員同士、情報交換し共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日々の気づきをカルテや連絡ノートに記録し、問題点を話し合い、ケアプランに反映させている。	本人からは日々の関わりの中で、家族からは介護保険更新の前に、来訪時や電話にて意向を聞きケアプランに反映している。管理者がモニタリングを行い日付の記入をしている。	本人や家族の希望や日々のケアの中から職員の意見等も含めて、介護計画ができるまでの記録と過程が確認できなかった。 例えば職員を担当制にするなど、仕組みとして何らかの工夫や取組の見直しを行うなど、介護計画の更新毎のアセスメントやモニタリングの記録の充実を図り、利用者ごとの現状に即した介護計画の作成への取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり、1日の流れを記入できようにしており、更に職員間の連絡ノートでも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況変化・ご家族の要望があればその都度変更できるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の老健での行事などに参加し、ご本人が出来ることなど積極的に行っていた。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に1度、依藤診療所の往診が可能で、ご本人・ご家族の希望を伺い対応している。	併設の老人保健施設からの入居者が多く、かかりつけ医がなかったり希望がなく往診の内科や歯科の診療を受けている。往診医からの紹介で他の病院を受診する必要がある時はご家族と一緒に受診して頂き受診結果の報告を受けている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の看護師に相談し必要に応じ受診等を行うことになっている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が病院へ面会に行き、ご本人の現状や今後の治療の情報を得て、退院に向けて連携を行っている。	最近1年での入退院はないが、入院した場合には退院が近づいた時に来訪するなどして状況の確認を行い連携をとっている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状悪化時の対応をご家族より書面でご意向を確認している。ご意向の変化もありうるため、何度も確認している。	入居時にアンケートにて重度化した場合の対応を書面にて確認している。状態変化があったときには、その都度確認を行っている。	終末期に向けた事業所としての方針を明文化し、状態変化時の確認なども体系的に整理記録し、医療連携に即した内容に整備されることが望まれる。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うことは難しいが、機会を作って訓練をするようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の防火訓練・防災訓練を今年5月に実施。災害時は併設老健の応援体制ができています。	1年に1回事業所で、消防署参加の防火・防災訓練を行っている。参加できなかった職員は申し送りを行い非常時に対応できるようにしている。また、非常時は併設の老人保健施設より応援体制ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の接遇には特に厳しく注意をしている。併設の老健と合同での勉強会も行っている。	プライバシーの保護・接遇についての研修を行うと共に職員一人ひとりに接遇や言葉遣いについての資料を渡し常に言葉かけに気を付けて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、ご本人の思いや希望を理解するように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを食事時間以外特に決めておらず、その日のその人のペースに合わせて決めるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時に、その人の好みに合わせるように援助している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなど、一緒にできることはして頂いている。行事食や誕生日などのリクエストを聞いている。	食事の準備は職員が出勤時に買い物してきている。献立も職員が利用者の声も聴きながら、立てている。なかなか好みを話してもらえないが、日々の会話の中で汲み取りながら、食事が楽しい時間になるように取り組んでいる。ちらし寿司やケーキ、バイキングも実施された。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量や献立の内容が分かるようにしている。また、併設老健の管理栄養士の助言も参考にしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の機能に応じた口腔ケアを実施している。義歯の方は洗浄剤を使用している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りトイレでの排泄を促し誘導している。	重度の利用者もおられるが、できる限り声かけをして、紙パンツでのトイレ誘導で対応している。ご自身でのトイレの利用を希望される方には、その都支援している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトを毎日食べてもらっている。また、野菜を多く摂取する献立も考えている。毎日の体操や散歩で体を動かすようにしている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日の予定は決めているが、その日のご本人の体調やご意向に合わせている。入浴時間は決めていない。	入浴のタイミングは、利用者の体調や気分を見ながら週に2～3回を目安に支援している。時間帯は決めていないが、個々の生活のリズムをみて声かけして介助している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに声かけして希望があれば居室での休息を支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を把握し、服薬の支援をしている。また、症状の確認にも努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事、好きなことなどを把握し、出来る状態であれば道具などを用意し支援している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは屋外散歩に出かけたり、庭でお茶を飲んだりしている。	毎日は難しいが、天候により、できるだけ庭や駐車場にできるようにしている。事業所の周りに散歩にできることもあるが、最近は、全員で出かけることが少なくなっている。花見や遠出するときには、全員で車で出かける。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支援する。現在希望されている方はいない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話番号を押すなどして、電話をしてもらうようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節感が感じられる貼り絵などを飾り、お好みの音楽を流すようにしている。	我が家の居間のように、玄関を入ると食堂兼居間がある。窓からの日差しは柔らかく、手作りの日よけにはアジサイの飾りに季節感がある。併設の施設がすぐ前にあるが、適度な目隠しも工夫されている。玄関も明るく、2階の居室や廊下も整理整頓されていて、清潔感もあり居心地良く過ごせるようにされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングダイニングは狭い為、個々の空間としては各居室で過ごして頂いている。リビングの窓際の椅子は日向ぼっこの場所として利用。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室への持込は自由である。家族写真など飾られている。お気に入りの雑誌などを置いてもらっている。	居室には、作品や好きな音楽が聴けるようにCDプレイヤーが置かれている。読書が好きな方の居室には本や雑誌も置かれて、好きな時に読書も楽しめるようにしている。カーペットを敷いている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活ばかりでなく、つたい歩きもできるように手すりを多く取り付けている。		